

子どもを立派に育てよう

－青少年の健全育成を考える－

開倫塾
塾長 林 明夫
(栃木県社会教育委員)

1. はじめに

(1) 民間から見た子どもの変化や特長

(ア) 今の子どもは素晴らしい

- (a) やさしさ、相手を思いやる心をもつ
- (b) 読み、書き、計算能力に優れ、英語にも取り組む
- (c) スポーツで鍛えた身体をもつ
- (d) 習い事で育まれた豊かな感受性、創造性をもつ
- (e) 国内外を移動するチャンスに恵まれているため、社会性が高い
- (f) I T (情報技術) を身につけている
- (d) センスがよい

(イ) これはすべて、日本の歴史始まって以来の豊かさの中で子どもが育っているためと考えられる。

(ウ) しかし、一方で日本の歴史始まって以来の豊かさの反作用も今の子どもは受けている。

(エ) 今の子どもの問題点

- (a) 肥満気味
- (b) 生活が不規則
- (c) 精神の安定性を欠く
- (d) 規範意識が備わっていない
- (e) 勉強が全くわからない

(2) そこで、家庭教育や学校教育だけでなく社会教育の立場から地域の子どもの立派に育てる取り組みが欠かせない。

今晚の私の「使命(mission、ミッション)」は、皆様とともに、「青少年の健全育成のために地域でできることを考える」こと。

2. 子どもの一生涯を見据えた上での青少年の健全育成を

(1) 「教育ある人」を育てよう

- (a) 日本の平均寿命は世界No.1。自己管理さえしっかりすれば、100 歳以上まで生きられるのが今の日本。

- (b)但し、国家や地方の財政状況は破綻寸前。誰も当てにせず、自己責任で生涯にわたって生活に必要な最低限度の収入を得ながら、「いつまでも若々しく生きる」にはどうしたらよいかを子どものうちから教育すべき。
- (c)また、21 世紀は「知識社会」。激しい世の中の変化に対応できる付加価値(ふかかち)の高い仕事や NPO 活動、社会起業活動やボランティア活動を自分で健康管理をしながら、無理をせずにできる範囲で一生涯楽しみながら行うことが求められる。
- (d)それには、一生涯にわたり自分の夢や目標に向かって「自分で勉強する力」、つまり「自己学習能力」を身に付けることが大切。
- (e)ところで、「勉強しつづける人」をドラッカー氏は「教育ある人」(Educated Person)と呼んだ。私は、「自分の夢や目標に向かって死ぬ前の日まで自分自身の方法で勉強しつづける人」を、知識社会における「教育ある人」と考える。このような意味での「教育ある人」を育てる栃木県づくり、鹿沼市づくり、地域づくりをすることを心から提言したい。

(2)「新聞を毎日 1 時間以上読んで考えよう」

- (a)日本は世界でも類を見ない「新聞文化」の国。雨の日も風の日も、雪の日も台風の日も、毎朝質の高い新聞が各家庭にまで配達され続けるのが日本の素晴らしさ。
小学校高学年から、少しずつ子どもを新聞に親しませ、小学生は 1 日 20 分、中学生は 1 日 40 分、高校生は 1 日 60 分新聞を読んで考える時間をつくる運動を、家庭、学校、地域社会で展開することを提言する。
- (b)地元で活躍する新聞記者を講師にお招きし、新聞ができるまでを子どもたちにお話いただくこと。同時に、新聞販売店の方もお招きし、どのように新聞が各家庭に毎日確実に配達されるのかをお聴きすることも、子どもたちが新聞に興味を示すよいきっかけとなる。
- (c)新聞社訪問、新聞印刷所訪問も効果的。新聞を活用した情報収集、スクラップ、レポートのまとめ方なども身に付けさせるとよい。
- (d)子どもに子ども新聞、コミュニティ新聞、学級新聞、家庭新聞など、気軽に楽しみながら新聞をつくることを奨励することは素晴らしい。
- (e)新聞はインターネットではなく、新聞紙で読むこと。

(3)「^{まちかど}街角図書館」のススメ

- (a)フィンランドが OECD(経済協力開発機構)の PISA(学力到達度調査)で 15 歳時の学力が世界一になったのは、街中いたるところにある「ミニ図書館」の活用の成果とも考えられる。
何とんでも学力の基礎は、「国語力」。国語力を鍛えるには、幅広い読書が一番。各家庭で不用になった本をブックオフ等の価格で買い取らせてもらったり、ブックオフ等から本を購入するなどして、購入経費を最低限におさえた「街角図書館」をおススメしたい。
- (b)同時に、気軽に本の読める「Reading Cafe」(リーディングカフェ)、つまり「読書スペース」を街にある遊休施設を活用して OPEN することもおススメしたい。
 - (i)中学生や高校生、大学のみならず、これから仕事や興味があることについてより深く勉強したい街の人々に読書や学習する場所や機会を与えることになる。これは、「学習する街づくり」(Learning Community ラーニング コミュニティづくり)に大きく貢献する。
 - (ii)読書スペース「Reading Cafe」(リーディングカフェ)では、爆弾づくりや、サイバーテロなど

反社会的な勉強以外なら、自由に自分の好きな本を読んだり勉強することを奨励する。
パソコンも持ち込めるようにするとよい。

(iii) 水以外の飲食とおしゃべり、ゲームの持ち込みを絶対禁止にすれば、飛躍的に読書や勉強はすすみ、学習効果も高まり利用者も増加する。

(4) 規範教育、躰(しつけ)教育もどんどん行おう

(ア) 規範教育とは、「安全教育」に通じる

(a) ものごとの善悪の判断の基準がわからない子どもも存在。

(b) 刑法など法律や条令で罰則規定まで設けて行ってはならないこととして規定してある行為は、絶対禁止と教育。犯罪にまきこまれないための教育も。

(c) 危険な行為、道徳的に行ってはならない行為についての教育も具体的に行う。

(d) 「問題解決型教育相談」を。

(i) 従来のカウンセリングや教育相談は、相談者の来所を待ち、相談室での話し合いだけにとどまることが多く、不登校やいじめ、家庭内暴力の原因の除去にまで至らない場合も多い。

(ii) 地域から犯罪の被害者を出さない。地域から犯罪の加害者を出さないとの視点から、よりふみこんだ形の「問題解決型教育相談」を実施することが重要。

(e) 男女は、家庭に保護者が不在の場合にはお互いに出入りしないこと、保護者が在宅の場合も部屋のドアは閉めないことなど、18 歳未満の最低限度の男女のつきあい方も積極的に教えること。

(イ) 躰(しつけ)教育

(a) 躰とは

(i) 美しい立ち居振る舞い

(ii) 敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

(b) 人間として大切なこととして、面倒がらずに子どもの一生のためと考え、気づいた人が教えること。

(c) 「躰教育」は、先生、先輩、上司と呼ばれる人の社会的使命と考えよ。

(5) 「よさ」「素晴らしさ」を子どもに伝えよう

(ア) アジアのよさ、日本のよさ、栃木県のよさ、鹿沼市のよさ、東部台地区のよさ、友だちのよさ、学校のよさ、家庭のよさ、自分自身のよさとは何かを具体的に考えるきっかけを作ってあげよう。

(イ) アジアに、日本に、栃木県に、鹿沼市に、東部台地区に、友だちに、学校に、家庭に、自分自身に誇りをもって生きるには、「よさ」を「よさ」として認め、大切に育てること。

(ウ) もちろん、反省すべきこと、改めるべきことはたくさんあり、少しずつよくしていくことは大事。ただ、子どものころから余りにも問題点を強調しすぎると、アジアほど、日本ほど、栃木県ほど、鹿沼市ほど、東部台地区ほど、友だちほど、学校ほど、家庭ほど、自分自身ほどひどいものはないと考えてしまう子どもに育ってしまう。

(エ) 改めるべき点は改めながらも、「よさ」をそのまま認め、「よさ」を伸ばすことを奨励することも大切な教育。

(6)「我慢をすること」の教育を。

- (ア)TVゲーム
- (イ)パソコン、インターネット
- (ウ)ケータイ電話

3. おわりに

(1)仕事の意味、働くことの意味を子どもたちに伝えよう

- (ア)せっかくだくさんの勉強のチャンスが与えられているのにもかかわらず、何のために勉強するのかわからないことを理由に勉強に興味をもてない子どもが多数存在。
- (イ)そんな子どもたちに、勉強の動機付けをするために仕事の意味、働くことの意味を伝えてあげることも重要。
- (ウ)地域の方々がどんどん学校に出掛けお話ししたり、子どもをインターンシップ生として職場に受け入れたりしながらお伝え下さい。

(2)学校の授業や補習、課外活動に地域の方々がお手伝いとしてどんどん参加し、きめこまかな教育を行うことを提言したい。

- (ア)世界一の学力の国となったフィンランドでも、また、学力強化の実現のため設立されつづけているアメリカのチャータースクールでも、教室の中には先生の他に地域のボランティアの方がお手伝いとして活躍していた。
- (イ)学校の先生だけで学校教育をすすめることはほとんど不可能。学校と地域がお互いに心を開き、子どもたちのために学校に地域の人々をより多く存在させるべき。
- (ウ)最大の課題は、一人でやることに慣れ、サポートされることになれていない学級担任と専門教科や部活動の先生。実験と成功事例づくりを。

(3)家を出た後、一人で人間としての生活をどのようにしたらよいのか、どんどん気づいた人が子どもに教えてあげることも大切。

- (ア)朝起きてから夜眠るまで一人でどう生活するのか。
- (イ)学校や職場での過ごし方、結婚をしてからの生活の仕方、子育ての仕方なども。
- (ウ)病気にならずに一生を過ごすためには、5年に1回は、年齢相応の健康維持の方法を予防医学も含めて学習する機会を地域でつくること。

(4)「いつまでも若々しく生きる」地域づくりを—— 子どももどんどん参加させて下さい ——

(5)大人が健全に生活して初めて子どもも健全に育つもの。

(6)立派な大人になるようにわれわれもがんばろう。